

ケニアの農業機械化の今

一前

経済発展の可能性から、地球最後のフロンティア」といわれるアフリカ。東アフリカに位置するケニアも農業を主たる産業として発展を遂げており、日・アフリカ農業イノベーションセンター(AFICAT)の調査国の一つとなり、官民一体となった民間レベルでの支援が始まった。そのケニアの現状はどうか。2022年3月よりJICA専門家として農業畜産開発省機械化局に勤務する村上峻一氏と、同じ2021年1月より同栽培局に勤務している深井芽里氏に伺った。

「ケニアにおける農業機械化の現状」一般的に農業機械化の現状は、農機保有率、農機利用率、農機保有率の3つの観点から見ていく。

ケニアにおける農業機械化の現状は、農機保有率、農機利用率、農機保有率の3つの観点から見ていく。ケニアの農業機械化の現状は、農機保有率、農機利用率、農機保有率の3つの観点から見ていく。

ケニアにおける農業機械化の現状は、農機保有率、農機利用率、農機保有率の3つの観点から見ていく。

ケニアにおける農業機械化の現状は、農機保有率、農機利用率、農機保有率の3つの観点から見ていく。



深井氏



村上氏



ムエア灌漑地区

ケニアにおける農業機械化の現状は、農機保有率、農機利用率、農機保有率の3つの観点から見ていく。

田植、除草等にニーズ

JICA村上峻一氏・深井芽里氏

ケニアにおける農業機械化の現状は、農機保有率、農機利用率、農機保有率の3つの観点から見ていく。

ケニアにおける農業機械化の現状は、農機保有率、農機利用率、農機保有率の3つの観点から見ていく。

JICA 筑波が研修実施

AFICAT ニュースレター No.8



ドライブハローで効率的な代掻き・均平が期待される



PAMAではオンラインと対面で講義などが行われた

国際協力機構(JICA)のアフリカ地域農業機械化センター(AFICAT)が、アフリカで取り組むAFICAT(日・アフリカ農業イノベーションセンター)のニューズレター第8号「アフリカにおける農業機械化の現状」を紹介したことを紹介している。

「水稲中干しの延長」が、決定的なメタンの削減に寄与する。水田からの発生を抑制する。水田からの発生を抑制する。水田からの発生を抑制する。

水稲中干しの延長

J-クレジットの方法論に

水稲中干しの延長は、メタンの削減に寄与する。水田からの発生を抑制する。水田からの発生を抑制する。